

口永良部島の航空磁気測量結果について*

The Results of Aeromagnetic Survey in and around Kuchinoerabujima

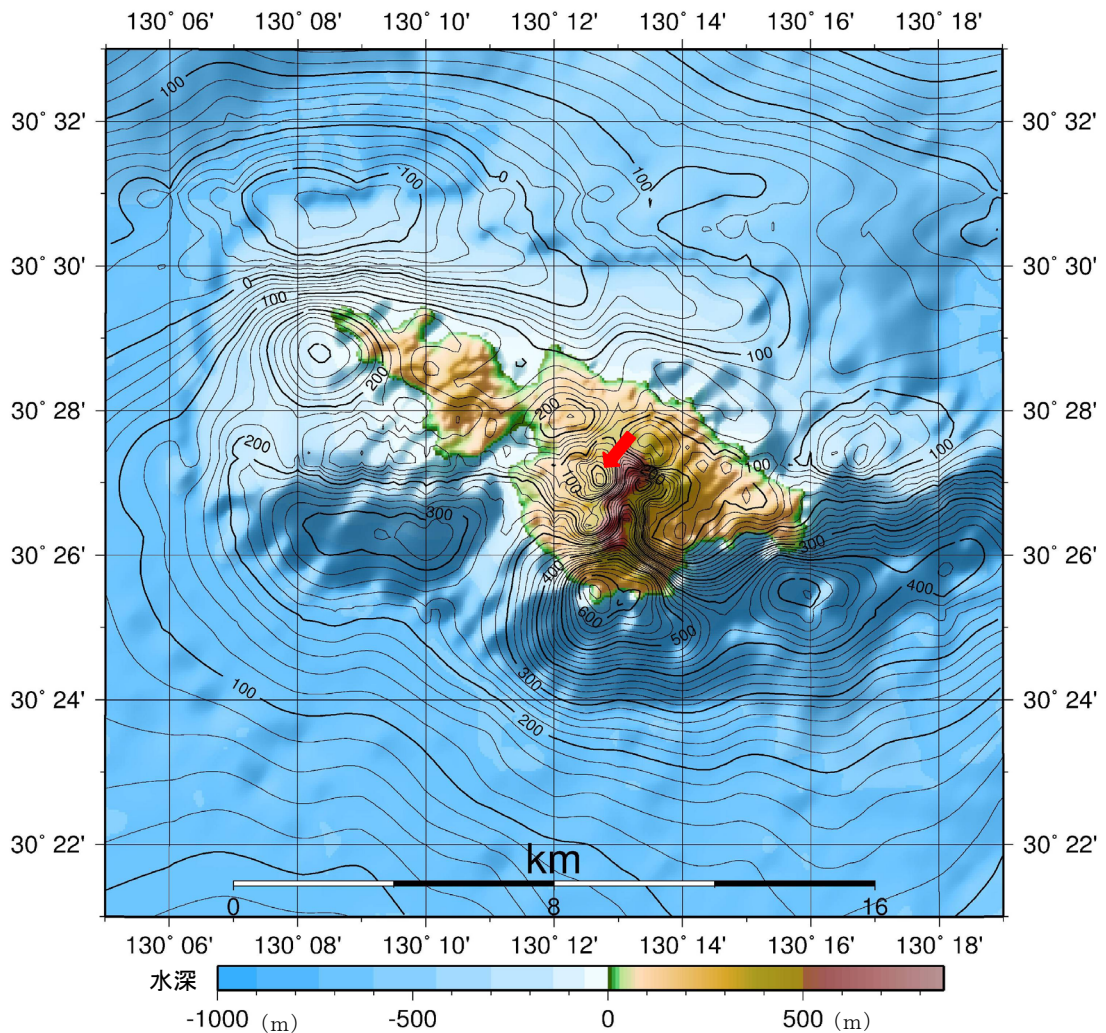
海上保安庁
Japan Coast Guard

海上保安庁では口永良部島の航空磁気測量を2009年2月に実施した。測量高度約800m、測線は東西、南北に、測線間隔約600m～1800mで実施した。調査結果である地磁気異常分布（標準磁場はIGRF2005使用）を第1図に示す。

口永良部島の磁気異常分布は、口永良部島の陸部は大部分が正異常域でしめられ、島北西部海域から東に向かって負の異常域が舌状に延びている。

古岳の南には正異常(600nT)があり、活動中の新岳の西側に負の磁気異常(-40nT、赤矢印)が見られる。

なお、1997年2月及び2000年10月にも実施しているが（火山噴火予知連絡会会報70号、81号）、これらとの比較解析は後日報告する。



第1図 地磁気異常コンター図（標準磁場はIGRF2005使用、20nT間隔）

Fig.1 Geomagnetic anomaly contour map (standard magnetic field is IGRF 2005, contour interval is 20nT).

（陸部の標高は国土地理院数値地図50mメッシュによる）

*2009年12月1日受付